

最近の WIPO の動き (34)

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所 *

1. はじめに

本稿では、WIPO の最近の動きとして、以下の3つを紹介する。

- ・ WIPO 加盟国総会の概要
- ・ WIPO グローバル・アワード 2023 の表彰式開催
- ・ 日本の WIPO GREEN パートナーによるネットワーキングイベントを初めて開催

2. WIPO 加盟国総会の概要

2023年7月6日から14日、第64回WIPO加盟国総会(以下、「総会」)が開催された¹⁾。本総会には、WIPOの193の加盟国から約1,200人も代表団が参加したが、これは過去最高の参加者数であった。

総会初日の冒頭、WIPO タン事務局長は、知的財産が世界中の人々を結びつけること、そして、WIPO が地球規模の課題やSDGsに向けたプロジェクトに注力し続ける旨を述べるとともに、「一つのWIPO コミュニティとして一緒にゴールラインを越えるという強い政治的意志を示すよう加盟国に呼びかける」とのリーダーシップの意志を示した²⁾。また、本総会には、ボツワナのモクウィツィ・マシシ大統領が参加し、途上国における知的財産の意義を強調するとともに、「知識主導がますます進む世界において、知的財産はイノベーション、経済成長、進歩の触媒となっている。発展途上国、特にアフリカにおいても知財の重要性を認識することが不可欠である。多くの可能性と

若い人口を抱えるアフリカにおいて、知的財産を活用して持続可能な開発を促進し、社会経済的進歩を達成したい」と述べた。

また、同じく総会初日には、日本国特許庁の濱野幸一長官による一般演説が行われ、「知財エコシステムの発展にはユーザーの利便性向上が不可欠である。我が国は、WIPO 日本事務所を介して、日本にいる世界有数の国際出願ユーザーの声を吸い上げることで、WIPO のサービス改善に貢献できる」と述べるとともに、WIPO ジャパン・トラスト・ファンドを通じたWIPO との協力、WIPO GREEN やGX 分野での取組等について言及がなされた³⁾。また、翌日に行われた日本知的財産協会(JIPA) 下川原郁子理事長による一般演説では、本年6月に開催されたJIPA とWIPO によるWIPO グローバル・イノベーション・インデックス(GII) をテーマとした共同ワークショップ⁴⁾ や、本稿で後述するWIPO GREEN ネットワーキングイベントの開催に触れつつ、世界の持続的成長と発展に向け、今後もWIPO と協調していく旨が述べられた⁵⁾。

本総会では、加盟国からの一般演説に続き、WIPO 各委員会からの報告事項、WIPO の2024-25年の二か年計画、国際出願制度等について、加盟国間で活発な議論が行われた。また、WIPO 総会の開

* WIPO の外部事務所の1つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>
また、WIPO やWIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター(四季報)にて定期配信中：
https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan

催期間に合わせ、数多くのサイドイベントが開催され、本稿後述の WIPO グローバル・アワードの表彰式の他、中小企業の知財活用や DX が知財庁に与える影響をテーマとしたディスカッション、特定の国・地域が WIPO と共同で行う各種イベント等、幅広いトピックに関するイベントが開催された。また、総会のマージンにおいて、日本国特許庁濱野長官と WIPO タン事務局長との間でバイ会談も実施され、日本国政府と WIPO が引き続き連携して各種施策を推進していく旨が確認された。



WIPO 加盟国総会 会場の様子



特許庁濱野長官と WIPO タン事務局長
によるバイ会談

WIPO 総会の議論の様子や、一部のサイドイベントの様子は WIPO ウェブキャスト⁶⁾でアーカイブ動画を視聴いただけるので、ご関心があればぜひご覧いただきたい。

3. WIPO グローバル・アワード 2023 の表彰式開催

WIPO グローバル・アワードは、知的財産権を活用してビジネス目標を達成するとともに、社会のために革新性や創造性を発揮している個人や企業を表彰する施策⁷⁾であり、2022 年より始まった。2 回目の開催である本年の WIPO グローバル・アワードのテーマは、昨年につき「中小企業」⁸⁾であり、2023 年 1 月 16 日から 3 月 31 日までの応募期間の間に、58 か国から 548 件の応募があった。その後、WIPO 事務局にて、最終候補 25 社を選出していたところ、本年の総会のサイドイベントとして表彰式が開催され、受賞企業 7 社が発表された。



受賞企業の代表と WIPO タン事務局長

以下、7 社の概要を紹介する。

- ・ Aerosol Magee Scientific — スロベニア
大気測定機器の開発および製造。特許と商標を併せて活用したイノベーション・ブランド戦略を展開。
- ・ Centro de Retina Medica y Quirúrgica (CRQM) — メキシコ
失明の原因治療に貢献。網膜への薬物送達技術のためのナノテクノロジープラットフォームを特許権で保護。
- ・ Flexxon — シンガポール
ランサムウェア攻撃をリアルタイムで検出・防止する AI ベースのサイバーセキュリティソリューションを展開。特許および商標を含

む広範な IP ポートフォリオを構築。

- ・ Lactips – フランス
100% バイオベースの完全生分解性プラスチックに関する技術の特許保護。
- ・ Shanghai Westwell Technology Co. Ltd. – 中国
特許、意匠、商標ポートフォリオを構築。バルク物流分野向けの環境に優しいソリューションを提供。
- ・ Xi 'an KissFuture Network Technology Co., LTD – 中国
独自の AR/VR 技術を有する。特許取得済みのモーションプラットフォームとハードウェアの最適化により、映画館や文化施設に総合ソリューションを提供。
- ・ YAKWETU™ Online Limited – ケニア
エンターテインメントテクノロジー企業。アフリカにおけるデジタル コンテンツの流通チャネルにおける著作権侵害に対応。

WIPO グローバル・アワードの受賞企業は、WIPO のメディアを通じたプロモーションが行われる他、知財スキル向上に向けた研修プログラム、カスタマイズされたメンターシッププログラム等を受けることができる。本アワードは、今後も継続して開催予定であり、開催にあたって WIPO 日本事務所からも応募内容等について日本語で情報発信を行う予定である。ご注目いただき、ぜひ、多くの日本企業の方にもご応募をいただきたい。

4. 日本の WIPO GREEN パートナーによる ネットワーキングイベントを初めて開催

2023 年 6 月 21 日、WIPO 日本事務所は、日本国特許庁、ならびに、一般社団法人日本知的財産協会 (JIPA) の後援の下、WIPO GREEN パートナーネットワーキングイベントを初めて開催した⁹⁾。本イベントは、世界一のパートナー数を誇る日本のパートナーを招き、WIPO GREEN を通じた環境技術のオープンイノベーションの活性化に向けた議論を行うとともに、パートナー間の情報共有を図ることを目的としたものである。

イベントでは、冒頭、「この場が、環境技術のオープンイノベーションを促す、業界や業種を超えた“交差点”となることを願う」とする WIPO 日本事務所長の澤井智毅の挨拶に始まり、特許庁濱野幸一長官より「GX 技術の普及を促す WIPO GREEN を日本特許庁として支援していきたい」との来賓挨拶を、また日本知的財産協会 (JIPA) の上野剛史専務理事より「WIPO GREEN 設立の 10 年目の節目である本年に開催される有意義なイベントを通じて協力関係を強化したい」とのパートナー代表挨拶をいただき、WIPO GREEN 担当責任者である Marion (Amy) Dietterich グローバルチャレンジ部部長による WIPO GREEN の現状報告のビデオをお送りした。さらに、日本知的財産協会 (JIPA) の別宮智徳 SDGs ワーキングリーダーからは「多々ある登録技術の活用に向けての活動強化」について、次いで富士通株式会社知的財産グローバルヘッドオフィスの大城貴士知的財産戦略室長からは「パートナー創出に向けての議論の場の重要性」について、三菱電機株式会社の片山秀彦知的財産渉外部部長からは「競争から共創の考え方」について、国立大学法人東京工業大学の嶋洋一副学長 (産学官連携担当) からは「研究・教育機関としてのグリーン化への貢献」について、講演をいただいた。



会場の様子



特許庁 濱野長官による来賓挨拶



WIPO グローバルチャレンジ部 Dietterich 部長
によるビデオ講演



WIPO 日本事務所長 澤井による開会挨拶



JIPA 別宮 SDGs ワーキングリーダー
による講演



JIPA 上野専務理事によるパートナー代表挨拶



富士通株式会社 大城知的財産戦略室長
による講演



三菱電機株式会社 片山知的財産渉外部部長
による講演



東京工業大学 大嶋副学長（産学官連携担当）
による講演

プログラムの後半では、参加の各機関の代表者全員から各機関の活動の紹介や WIPO GREEN への要望・意見などを中心に活発な自由討議が行われた。また、終了後のレセプションでは、会場参加の参加者同士の自由なネットワーキングが行われ、盛況なイベントとなった。

日本における WIPO GREEN パートナーが一堂に会し、ネットワーキングを図るイベントは初めての試みであったが、現地参加とオンライン参加を合わせて 72 名が参加した。なお、忌憚のない意見を交換すべく、パートナーのみのクローズドな会議形式を採用した。参加パートナーからは、地球環境問題への取り組みには、業界を超えた共

創やパートナーシップが必要であること、また、知的財産活動や WIPO GREEN に対する社内の意識改革が課題であることなどの多くの意見が表明された。イベント後のアンケートにおいても、96% もの肯定的な評価をいただき、次回の同種会合への参加希望が 100% となるなど、高評価をいただいた。

日本からの WIPO GREEN パートナー数は、2023 年 7 月に株式会社 LIXIL が加盟し、ちょうど 50 の節目を迎えた。WIPO 日本事務所では、WIPO GREEN を通じたマッチングや技術移転の成功事例の創出を促すべく、引き続き WIPO GREEN パートナーと連携しつつ、取組を進めていく。

(注)

- 1) 第 64 回 WIPO 加盟国総会ウェブサイト (英語) : <https://www.wipo.int/about-wipo/en/assemblies/2023/a-64/index.html>
- 2) WIPO タン事務局長による開会挨拶全文 (英語) : https://www.wipo.int/about-wipo/en/dg_tang/speeches/a-64-dg-speech.html
- 3) 特許庁濱野長官による一般演説全文 (特許庁ウェブサイト) : <https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202307/document/2023071001/01.pdf>
- 4) 関連する WIPO ウェブサイト (日本語) : https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2023/news_0019.html
- 5) JIPA ウェブサイト : http://www.jipa.or.jp/topics/view.php?topics_id=26153252d70c02d2bccf7254940ffdaf
- 6) WIPO ウェブキャスト : <https://webcast.wipo.int/>
- 7) 関連する WIPO ウェブサイト (日本語) : <https://www.wipo.int/global-awards/ja/>
- 8) ここでの中小企業とは、世界銀行の定義に従い「従業員数 300 人以下、年間総売上高 1,500 万ドル以下」の企業を指す
- 9) 関連する WIPO ウェブサイト (日本語) : https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2023/news_0016.html

(原稿受領日 2023 年 7 月 28 日)